

2019年10月6日

## 行動経済学会第13回大会サテライト・ワークショップのお誘い

行動経済学若手ワーキンググループ

拝啓

秋冷の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、来る11月9日、10日に開催されます行動経済学会第13回大会に先立ちまして、大会前日の11月8日（金）に有志によるワークショップ「**行動経済学と心理学の今後の関係性**」を企画いたしました。

このワークショップは、行動経済学に関心のある研究者間で、活発な議論を通じてお互いの興味や知見を共有し、行動経済学に対する理解を深めることを目的に開催されます。登壇いただく講演者による問題提起を基調にしつつ、参加者全体で議論を積み重ね、各々の問題意識の掘り下げと新たな視点への気づきが芽生えるような会にしたいと考えております。

学会直前のご多忙な時期とは存じますが、奮ってご参加いただきますようご案内申し上げます。また、関係各位への周知等にもご協力賜りますようお願い申し上げます。

なお引き続き倍旧のご厚情を賜りたく、切にお願い申し上げます。

敬具

### 1. 目的

活発な議論を通じてお互いの興味や知見を共有し、行動経済学に対する理解を深めることを目的とする。

### 2. 行動経済学若手ワーキンググループ

小島健（福島大学）、窪田康平（中央大学）、黒川博文（兵庫県立大学）、高阪勇毅（福山大学）、後藤晶（明治大学）、佐々木周作（京都大学）、田村輝之（京都経済短期大学）、中村隆文（神奈川大学）、林良平（東海大学）、本田秀仁（安田女子大学）、森知晴（立命館大学）、山根承子（大阪大学）

### 3. 日時・場所

名古屋商科大学ビジネススクール丸の内タワー11階 Auditorium 1  
2019年11月8日（金） 15:00～17:00（14:50 受付開始）

#### 4. ワークショップ概要

テーマ：「行動経済学と心理学の今後の関係性」

司 会：山根 承子（大阪大学）

登壇者：

上條 良夫氏（高知工科大学・教授）

三船 恒裕氏（高知工科大学・准教授）

山田 克宣氏（近畿大学・准教授）

#### 5. 企画趣旨

1930年代より、心理学分野において、「行動分析学」という研究領域が生まれ、1970年代には、行動分析学と経済学を結びつけた行動経済的研究がなされるようになりました。この研究領域では、主に動物実験により伝統的な経済学の理論を検証するアプローチがとられました。一方で、心理学の「行動意思決定理論」より派生した行動経済学的研究は、実際の人間行動と理論との妥当性を検証する方法が用いられました。このように、心理学と行動経済学の関わり合いは歴史において非常に長く、本ワークショップでは、行動経済学と心理学の今後の関係性や、今後のそれぞれの役割・研究の方向性につきまして、議論を深めてゆきます。

はじめにワークショップの冒頭では、3名の登壇者にそれぞれのご見解や問題提起を行っていただきます。そして議論の後半では、聴衆参加型の議論を通じて、皆様にもそれぞれの視点・立場より自由闊達な議論を展開していただき、今後の研究活動等におきまして、新たな気づきや問題意識等が芽生えましたら、幸いです。

※参考文献：心理学と行動経済学の歴史につきましては、下記を参照いたしました。

竹村和久，村上始，2019. 「心理学と行動経済学—古典的心理学と確率荷重関数の関係を中心に」，依田高典，岡田克彦（編著）『行動経済学の現在と未来』（行動経済学会創立10周年記念），日本評論社，97-124.

#### 6. 対象

- 主として、行動経済学に関する研究を行っている研究者・学生。
- 身分や年齢、経歴は問いません。お気軽にご参加ください。

#### 7. 参加方法

- 当日会場へお越しください。

8. 会場 (大学 HP: <https://mba.nucba.ac.jp/access/>)



以上